

「モバイル市場における競争環境に関する研究会」  
9月20日会合ヒアリング項目（MVNO委員会・楽天モバイル）

（1）5G時代におけるネットワーク提供に係る課題についての検討関係

① MVNOによる5Gの円滑な提供開始

5Gについては、来年春のサービス提供開始が見込まれるところ、MNOとMVNOの公正競争確保の観点から、MVNOにおいても利用者への提供を円滑に開始できるようにすることが重要と考えられます。

5GのMVNOへの開放に関する要望（開放開始時期、情報提供等の開放開始までのスケジュール、その他開放にあたって問題となる点等）について、具体的にご説明願います。

② MNOとMVNOの競争環境の一層の整備

4Gから5Gへの移行は、LTE基地局と連携する構成から5G単独の構成へ段階的に移行することが想定され、それに伴い、ネットワークの仮想化やスライシング導入、クラウド等他者設備利用の拡大、様々な形態の事業者間連携等の環境変化も進展していくことが想定されます。こうした環境変化の進展とその対応については、「IPネットワーク設備委員会」「次世代競争ルール検討WG」において検討が行われていますが、二種指定制度における規律の観点からも、アンバンドル機能、接続料の算定方法等、生じ得ることが想定される課題について、現時点で検討しておく点がないか確認する必要があると考えられます。

仮想化の進展等による他者設備利用、スライシングの活用、新たな事業者間連携といった環境変化により生じることが想定される二種指定制度における規律（アンバンドル機能、接続料算定方法等）に関する課題について、ご見解をご説明願います。

③ eSIMの普及への対応

eSIMについては、IoT向けのみならずスマートフォンにおいても搭載端末が今後増加することが見込まれており、また、海外では既に多くの通信事業者がeSIMに対応したサービスを提供しているところ、日本では現時点でMVNOのIIJが提供しているのみとなっています。今後、例えば、2020年オリパラ大会等を契機として、訪日外国人が日本国内における通信契約をeSIMにより簡便に行うといったニーズが高まることに加え、eSIMによる2回線目の利用等の新たなニーズが生まれてくるものと考えられますが、eSIMの普及に伴い、日本国内のMNOにおいても、eSIM対応サービスの開始が期待されること、MNOとMVNOとの公正競争の促進及び利用者利便向上の観点から、MVNOが同様のサービスを行うことができるよう、適切な機能開放について、検討を行うことが必要ではないかと考えられます。

eSIM活用の考え方、活用の状況、RSPの開放に関する課題、その他MNOに対する要望等について、具体的にご説明願います。